

三重 PECS 研究会 第 21 回研修会 報告書

1. 日時 2018年11月25日(日) 10:00~12:00

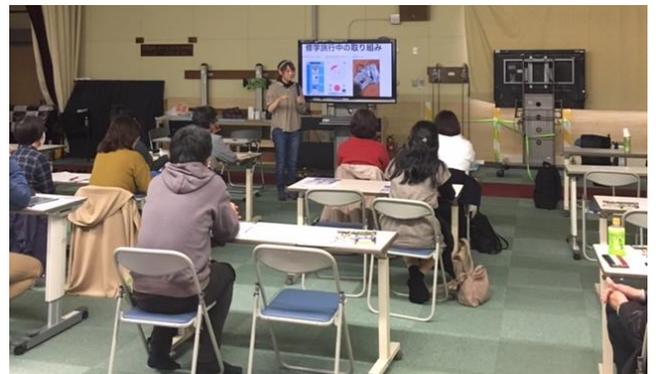
2. 場所 杉の子特別支援学校プレイルーム

3. 参加人数 18名

4. 内容

(1) 話題提供1 「小学部の実践」 中川綾華さん(伊賀つばさ学園)

- ・ 小学部のあるクラスの修学旅行の取り組みを発表。
- ・ たすくスケジュールを活用し、終わりの合図はタイムタイマーを使用した。見通しを持ち、落ち着いて活動できた。
- ・ 同じく、スケジュールや具体物、タイムタイマーを使用し、見通しを持ち、笑顔で活動できた。信頼する、好きな先生の存在も大きかった。



(2) 話題提供2 「体育や図工での実践」 石井幸仁さん(松阪あゆみ特別支援学校)

- ・ 小学部のあるクラスの取り組みの概要。コミュニケーション支援に力を入れてきた。A児は他害が激減し、人を介してのコミュニケーションが増えた。B児は自発要求が増え、理解コミュニケーションの学習が進んだ。集団に入り、落ち着いて学習できることが増えた。
- ・ そのクラスの図工や調理の授業でコミュニケーション学習を行った。好みの素材や必要な道具の要求、援助の要求等の学習を計画した。児童の自発性が高まり、笑顔で活動することが増えた。
- ・ 小学部の体育の○グループの取り組みの発表。好みの運動を最後にできる。そのためにトークンをためる視覚的強化システムを導入した授業。運動の場面で好みのタオルや活動を要求する場面を作った。児童のモチベーションが高まり、自発性が高まった。



(3) 質疑応答、グループ討議

- ・ 大好きな先生がクラスにいと、子どもたちが安心して学習できる。それが強化子になる。
- ・ 関係者のとの連携が大切であるが、そのためには情報共有が必要で、そのためのツールが個別の支援計画であり、相談ファイルである。
- ・ 障害のある2人の子どもがいて、5つの事業所を利用している。事業所によって、方針が違う。時間をかけてゆっくり伝えるようにしている。うまく情報共有できていると思う。

(4) 助言者の先生より

- ・ 連携については、今までいろいろな苦労があった。その中で大切だと思ったことは、動画の共有である。見て理解していただくことが一番の共通理解だと思う。支援計画に動画が添付できないかと考えている。
- ・ 連携については、キーは「保護者」である。保護者に理解してもらい、支援を継続してもらうことが重要である。
- ・ PECS をフェイズ通りに指導している人が多いが、いろいろなコミュニケーションの学習を絡めていくと良い。よくスケジュールから学習する人がいるが、これはフェイズⅢの学習後である。マニュアルの148ページを見て学習を計画してほしい。

5. その他

この日の午後は、門眞一郎先生による「iPECS 講習会」を同会場で行いました。参加者は、29名でした。

講習会のマニュアルに沿い、セットアップから、各ページの使い方、絵カードの作成方法等、たくさんのことを学びました。濃密な2時間でした。

参加者には、「とてもよく分かりました」、「iPECS の便利さがよくわかりました」等、満足度 200%でした。

広がれ！ iPECS！

